

答弁書第三号

内閣参質七八第三号

昭和五十一年十月二十二日

内閣総理大臣 三木武夫

参議院議長 河野謙三殿

参議院議員野末陳平君提出住宅ローン返済方式に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

参議院議員野末陳平君提出住宅ローン返済方式に関する質問に対する答弁書中正誤

三ページ 五行 「可能となるほど」は「可能となるなど」の誤り。

(答弁書第三号)

参議院議員野末陳平君提出住宅ローン返済方式に関する質問に対する答弁書

一について

我が国において、現在住宅ローンの償還方式として元利均等方式が一般化しているのは、元金均等方式に比べて、元利均等方式の方が、利用者にとつて返済しやすく、かつ、多額の借入が可能となるほど、利用者のニーズにより適合していることによるものと考えられる。

二について

住宅ローンの償還方式については、それぞれの金融機関が利用者のニーズの動向を参しやくしつつ決定しているところであり、政府がこれに関して指導することは考えていない。

三について

近年住宅ローンについては、元利均等方式のみを採用する金融機関が増えているが、これは

利用者のニーズが元利均等方式に向っていること等を勘案した結果と思われる。